

ハンドマイク街頭演説原稿例

安倍元首相の「国葬」に反対する

二〇二二年七月二十二日 日本共産党埼玉県委員会・作成

ご近所のみなさん、こんにちば。日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

みなさん、参議院選挙のさなか、安倍晋三元首相が街頭演説中に銃で撃たれ、命を落とすという、大変痛ましい事件が起きました。無法な暴力で命を落とされた安倍氏に対し、改めて哀悼の意を表します。

日本共産党は戦前の一九二二年に結党し、今年で100周年となります。戦前の日本には言論の自由はなく、平和と民主主義を主張した日本共産党はそれだけで犯罪者とされ、厳しい弾圧を受けました。小説家の小林多喜二のように、弾圧の中で命を落とした黨員も少なくありません。そのような経験をもっているだけに、言論を暴力で封じ込めようとする暴挙は断じて許せません。

ところでみなさん、岸田首相は今年の秋に、安倍氏の国葬を行うとしています。安倍氏の死を悼む気持ちと、国葬を行うことは別な問題であり、日本共産党は安倍氏の国葬に反対するものです。

安倍氏は首相として憲法9条改定の旗を振り、歴代政府の憲法解釈をひっくり返して集団的自衛権の行使を認める閣議決定をし、安保法制を強行するなど「戦争する国」づくりを進めてきました。格差と貧困を拡大するアベノミクスを進め、現在の物価高の原因を作ってきました。さらには「森友」「加計」「桜を見る会」など、国政を私物化してきた疑惑もすべて解明されたわけではありません。これらの問題を、安倍氏の死によってなかったことにするわけにはいきません。安倍氏の国葬は、評価の分かれる安倍政治を礼讃するものとならざるを得ません。

そして、安倍氏に対してどう思うか、その死に対してどのような態度を示すかは、一人ひとりの内心の自由にかかわる問題です。かつて吉田茂・元首相の国葬が行われたとき、バラエティ番組は「ふさわしくない」として、テレビやラジオからいつせいになくなりました。そうです。この時のような、弔意の押し付けが今回も起こりかねません。国民の人権にかかわる問題になります。

さらに、国葬となればその費用は国がすべて負担します。2020年に中曽根元首相の内閣と自民党の合同葬が行われた際、国は葬儀費用の一部として約1億円を負担しましたが、コロナ禍のもとでの多額の負担に、多くの批判の声があがりました。今年秋にはさらなる物価高騰で、国民生活がさらに苦しくなると予想されており、中曽根氏の時以上に国民の批判の声があがるのではないでしょうか。

日本共産党は、多くの国民が批判し疑問を持つ、安倍氏の国葬に反対するものです。

スクープ連発で広く注目をあつめている「しんぶん赤旗」を、この機会にぜひご購読いただきますよう最後にお願いたしました。この場所をお借りしての日本共産党の政策の訴えを終わります。ご協力ありがとうございます。(了)